

秋田市公立大学法人評価委員会 平成24年度第3回 議事要旨

日 時 平成25年2月7日(木) 10:00～11:30

会 場 秋田市役所会議兼応接室

出席者 【委員】 野田 敏明 委員長
 鑑 隆千代 委員
 佐野 元彦 委員
 清水 誠一 委員
 堀井 照重 委員 以上5名
【市 側】 石井 副市長
 【大学設置準備室職員】
 堀井室長、近藤参事、北嶋副参事、小川主席主査、
 加藤主査、水澤主査、鈴木主事、佐藤主事

配付資料 1 中期目標(案)【資料1-1】
 2 中期目標に対する意見と対応【資料1-2】
 3 中期計画(骨子案)【資料2】

議事経緯

開 会

事務局 ただいまから「秋田市公立大学法人評価委員会」を開会する。

5名の委員のご出席をいただいている。
会議の進行を、委員長にお願いします。

【議事(1) 中期目標について】

事務局 (資料1-1、1-2に基づき説明)

委 員 基本理念は確定した概念のようだが、基本的な目標の「美術領域」と基本理念の「芸術領域」とはどのようにつながるのか。

事務局 基本理念はすでに確定したものである。
基本的な目標ではあえて「美術領域」という表現を使用しているが、これは、これまでの大学の美術教育では分野ごとに分かれていたものを、新大学では分野に分けないことを特色としているからである。

委 員 修正してよくなっていると思うが、「美術」と「芸術」の使い分けを確認したい。

1ページの基本的な目標では、これまでの概念的なものは日本画や西洋画という枠があるが、そうではなくてもっと幅広い「芸術領域」という説明であると思った。

しかし、同様に直されている4ページの3の(1)「研究水準および研究の

成果等に関する目標」のアでは、前は「新しい芸術領域の創造」であったのが今度は「新しい美術領域の創造」となっている。

先ほどの説明から、これから新大学が行っていくのは「芸術領域の創造」であると思ったが、ここでは「美術領域」が適当な言葉ということか。

副市長

「美術領域」は、大学名を意識した表現になっている。

理念はあくまでも理念であり、崇高で普遍的なものである。これまでの領域にとらわれないというメッセージが大事である。

「以下の4つの大学の基本理念のもと」と修正し前よりはよくなったが、基本理念が先にあり、理念のもとにこういう大学作りを目指す、という方が分かりやすいのではないか。

委員

「基本理念のもと」というのは、ベースとしてはよいと思う。

委員

基本理念を最初に持って行く方が、流れとしては分かりやすいのではないか。

副市長

「秋田公立美術大学として、この理念のもと、これまでの領域にとらわれない」とつないでいき、このための中期目標を定めるとしてはどうか。

事務局

ご意見を参考にして、最上位に基本理念が来て、次に「秋田公立美術大学は、」以下の文章が続く形で検討したい。

委員

基本的な目標の5行目の「芸術・文化」と、9行目の「芸術文化」の2種類があるが、どちらかに統一できないか。

事務局

全体をとおして推敲して、整理させていただきたい。

「地域の伝統・文化」や、「現代における芸術・文化」などは、中点を入れた使い方をしてきて、9行目は「芸術文化」としているが、中身の違いについては、そこまでの意識はないと理解していただきたい。

委員

4ページの3(1)アは「歴史文化」となっているが、「伝統文化」ではどうか。

事務局

その「歴史文化」に関してはカリキュラムをかなり意識している。

新大学のカリキュラムで歴史に関してフィールドワークを行う関係上、「伝統」では幅がないので、あえて「歴史文化」として歴史的な観点を入れた。

委員

「歴史文化」は「歴史や文化」という意味か、それとも「歴史文化」という語句か。

事務局

どちらかと言えば「歴史や文化的な」という意味である。

委員

「歴史文化」とすると学問的になる。「歴史や文化」と「や」を入れると、民族や風習なども文化の中に含まれてくる気がする。そういう意味では「や」を入れた方がよい。

カリキュラムについては詳しく分からないが、研究となった場合は、「歴史文化」の方がよいのか。

事務局	「や」を入れる方がよいと思われる。
委員長	基本理念の「秋田の伝統」と、4ページの3(1)アの「歴史」は、使い分けられているのか。
事務局	<p>学問領域としてどちらが範囲として適切かというレベルであり、積極的に使い分けているわけではない。</p> <p>新大学では伝統、地域の特徴を非常に大きな要素として認識しているので、そういうことを書いているところは「伝統」という言葉を使っている。</p> <p>より幅広い歴史的な流れを意識したところは、「歴史」という言葉で、使い分けしている。</p>
委員	伝統を育んできた要因を探るために歴史を学ぶということか。
委員	カリキュラムでは何の科目が相当するのか。
事務局	歴史に関しては、教養科目の中に歴史と文化というグループがあり、この中に文化人類学や、生活とデザインなどがある。さらに美術系の専門教育では美術理論、デザイン史、日本美術史などを学んでいく予定である。
委員	改めて聞くが、4ページの3(1)アの1行目の「美術領域の創造に資する」、ここは「美術領域」の方が適切なのか、それともこれから作り上げていくのは「芸術領域」の方がよいのか。
事務局	4年制大学設置準備委員会で委員長である秋田公立美術工芸短期大学の学長から、「芸術」を「美術」に修正してほしいとの話があった。「芸術領域」には音楽なども含めた新しい領域があるが、1年から6年の短い期間での研究は「美術」に限られるので、「芸術」ではなく「美術」が適切であるという考えと思われる。
委員	ある段階になると「美術」から「芸術」になるのか。そういうことはないと思われるが。
事務局	新しい「芸術領域」を作ることは学部レベルではかなり難しいことは皆分かっているが、基本理念では今までにとらわれず挑戦していくという意味で書かせていただいている。
委員	<p>「美術」という言葉が合わないということではない。</p> <p>なぜ秋田公立芸術大学ではなく秋田公立美術大学なのかということを見ると、「美術」という言葉になる。</p>
副市長	東京藝術大学のように美術だけではなく音楽もあれば、「芸術」という言葉の方が分かりやすい。
委員	「芸術」にこだわる事ではないと思うので、説明がつくかあるいは「美術」と「芸術」との違いを認識していれば「美術」でよいと思う。

- 委員長 大学院のことであるが、中期目標は6年間の目標であり、学部でこの目標を6年間行うとなっているので、逆に6年間は大学院を作らないと解釈されるのではないか。これからは大学院が設置された大学がよい。
6年の間に準備と設置も含めてではあるが、大学院を設置できるようにしておく必要があるのではないか。
- 副市長 今は4年制として大学の運営を行うが、4年間学んだだけで社会に出て自立できるかという問題があり、大学を出た後に社会で実践するための研修的な場所が必要であるとは思っている。大学院の必要性、大学院に代わる研修の場については今後議論して行きたいと思っている。
- 委員長 6年間の中期目標の中に大学院設置に向けて努力するという項目がほしい。
大学院を設置したいとき、中期目標に記載がないので作れないとなる可能性があるのでは、そこが気になる。
- 副市長 大学院設置の可能性を中期目標の中に入れ込むかどうか。
- 委員長 6年間の中期目標であるから、大学院設置を記載することで6年間大学に来てくださいという意志表明にもなると思う。
- 事務局 美術学部美術学科の中期目標と理解している。大学院の設置を指示する場合は目標を変えなければならない。
- 委員長 ここまでで話題に取り上げられたのは、1ページの基本的な目標の基本理念を前段の文章の前に持っていったらどうかということであるが、この中で質問のあった「芸術・文化」、「芸術文化」については先程の説明でよろしいか。
- 委員 中点の有無について、その理由を説明できるようにお願いしたい。
- 副市長 説明ができる前提として、中点のないものとあるものとの使い分けが必要である。精査させてほしい。
- 委員長 4ページの3(1)アの1行目の「美術領域」「芸術領域」については室長の説明で理解いただいたということによろしいか。
また、2行目の「歴史文化」は「歴史や文化」のように「や」を入れることを検討願いたい。
他に気づいた点があれば意見を願います。
- 委員 6ページの3「事務等の効率化に関する目標」の(2)で、なぜ、「事務職員」と限定したのか。
スタッフ・ディベロップメントと記載されているので、「職員」の方が差し障りがないのではないか。
- 事務局 広義の「職員」には教員も入るので、ここでは「事務職員」として、教員を除いていることを表している。
- 事務局 スタッフ・ディベロップメントは教員以外を対象にするものと理解している

ので、「事務職員」という書き方をしている。

委員長 中期計画、年度計画に同様の言葉が出てくると思われるので、考え方を統一して共通理解をしておく必要があると思われる。

事務局 不都合な点があればその都度検討したい。

委員長 前回、今回と議論してきているので、中期目標については委員会としての基本的意見をまとめたいと思う。

当評価委員会からは市長に対し、案のとおりで良いという趣旨の意見書を提出することとしたいがよろしいか。

なお、今後、表現の変更を検討しているとのことであるが、内容に大きな影響がなければ、委員長および事務局に一任していただいでよろしいか。

事務局 基本的な目標の部分については表現の変更が大きいので、修正後のものをFAX等でお送りし、確認していただいたうえで、改めて了承していただきたいと思う。

(異議なしの声)

【議事(2) 中期計画について】

事務局 (資料2に基づき説明)

委員長 今回は中期計画の骨子案であるが、3月19日の評価委員会第4回会議では素案を議論する予定である。

中期目標が6月議会で議決された後に、法人が中期計画を市に認可申請し、それに対して評価委員会が意見をするという理解でよろしいか。

中期計画の骨子案は他大学を参考にしていると思うが、抜けている項目や方針への意見があれば、今の段階から検討していただきたい。

委員 意見は2点ある。

1点目は、5ページの4の「社会貢献に関する措置」で、社会貢献センターが出てくるが、社会貢献センターを設置することを明示してから、そこが中心になって(1)から(6)までの6項目を行うとすべきではないか。

事業の検討とあるので、検討はするが実施をしないと受け取られるのではないか。

2点目は、7ページの第6の4の「人権擁護・法令遵守に関する措置」であるが、ハラスメント委員会やコンプライアンス委員会のような対応する組織の設置を中期計画に入れるべきではないか。

事務局 1点目の社会貢献センターを設置する件であるが、大学の組織として設置することになっているので、ここでは記載をしていない。

2点目のハラスメント委員会等についても、構想はあるので意見を取り入れていきたい。

委員長 社会貢献センターについてあえて記載しなくてもよいのではないか。

事務局 社会貢献センター自体が大学の社会貢献の大きな部分を担っていることは設置の趣旨にもうたわれており、5専攻と連携しながら進めていく形になるので、強い意味を込めてここで明示している。

委員長 委員会については、記載するかどうかは別として、他にもいろいろな委員会があると思われるが。

事務局 骨子案の段階であるので、委員会の記載が必要であれば盛り込んでいくことは可能であり、今後のご意見をいただきたい。

委員 秋田市民と秋田市民以外の者の入学金や授業料には差があるのか。

事務局 入学金については優遇措置があるが、授業料は同じである。

委員 入学者数のうち何割かは秋田市民でなければならないというような要望は議会などからないか。

副市長 市民にも入って欲しいので推薦選抜の中で市内枠を設けているが、一般入試に関しては全国一括である。一定レベルの学生を確保するとすると、市民を何割に、とするのは難しい。

事務局 様々な意見があると思うが、25名の推薦枠の中で秋田市内枠5名、県内枠5名で、募集人員の1割にあたる10名が秋田県内から入学するので、それ以外は全国区で競争していただきたいと思っている。

委員 市民からの入学者数を目標にするのは違うと感じている。

委員長 科目履修生や聴講生なども募集するのか。

事務局 募集は行わない。科目履修生や研究生の制度はあるので受入れは可能であるが、まだ4年生まで学生が揃っていない段階なので、もう少し研究を進めていきたいと考えている。

委員 4ページ3の「研究に関する措置」の(1)「研究水準および研究の成果等に関する措置」のウの(ア)と(イ)には「積極的な評価」の文言があり、具体的な評価基準が打ち出されている気がするが、(ウ)と(エ)はどのようにそれをいかしていくかという内容であり、並んでいる項目としては質が異なるのではないか。

事務局 項目だけ羅列すると違和感があるかもしれないが、研究活動の評価をしながら教員の質を向上させて大学全体の質を向上していきたいという趣旨である。
(ア)(イ)のみが基準という印象があるので、教員と話し合いたい。素案では文章になるので、もう少し分かりやすくなると思われる。

委員長 目標は大体固まったので、中期目標に対する中期計画が連動しているかを見ていただきたい。

骨子案の考え方でいけば、数値的な目標は年度計画で出ると思うが、数値的なたたき台があると、表現全体を検討しやすい気がする。具体的な数字は別として、数字的な表現をする部分と、文章で表現する部分が分かれば、中期計画の表現も検討しやすいのではないか。

事務局 中期計画の素案作成は遅れているので、もう少し検討の時間をいただきたい。

委員長 数字は一人歩きする恐れがあるので十分に検討願いたい。

事務局 今日骨子案で項目のみを示しているが、実際の中期計画では文章化されるので、より内容が分かるようになる。
次回3月19日の評価委員会までには文章化をして教員の考えも取り入れたい。

副市長 4月1日から新大学がスタートすることを踏まえると、法人が中期計画を市に申請するのは6月頃であるが、3月19日の段階である程度具体的なものにしておかないといけない。

事務局 中期目標を2月議会で説明するためにも、中期計画の素案の作成を頑張りたい。

委員長 骨子案ではイメージだけなので、次の素案の審議の時により具体的に検討いただくこととしたい。

閉 会

次回開催 平成25年3月19日(火) 13:15～